

漢字学習ストラテジーを学ぶ授業: 実践報告

田村直子 (ボン大学東洋言語研究所)

要旨

日本語教育では多くの人が漢字の扱いに頭を悩ませているのではないだろうか。本稿ではボン大学で 2004 年夏学期に行った漢字を学ぶための漢字学習ストラテジーを身に着ける授業について報告する。漢字学習ストラテジーを応用して学生が作成した漢字練習問題は、新しいストラテジーを使いこなす学生の応用力と、漢字に対するアプローチの様々な可能性を示している。この結果を見ると、授業時間数の限られた日本語教育の場においては、「漢字を教える」というよりは「漢字の学び方を学ぶ」ということに重点をおいてもよいのではないかと考えられる。

1 はじめに

当研究所では日本学，地域研究学日本専攻，翻訳学を専攻する全学生を対象に，基礎課程 2 年間の日本語教育を行っている。学生は専攻によって毎週 6 時間から 8 時間の日本語の授業を受けることになっている。授業の内訳は，週 2 時間の文法の講義，週 4 時間の口頭能力養成のクラス，週 2 時間の読解および漢字のクラスからなっている。今回はこの週 2 時間の漢字・読解クラスの，4 学期目の授業を報告する。

対象となる学生は日本学（主専攻），翻訳学（第一言語日本語），地域研究学の学生で，ほとんど非漢字圏の学生である。1,2 学期目に「げんき」（The Japan Times）で 317 個の漢字を学んでいる。3 学期目には「Basic Kanji Book 500」第 2 巻（凡人社）と「Intermediate Kanji Book」第 1 巻（凡人社）第 1 課と第 2 課までを読み書きできるように，「日本語中級 J301」（スリーエーネットワーク）の本文に出てくる漢字を読めるようになっている。つまり，4 学期に入る前の段階で漢字 561 字を読み書きでき，加えて「J301」の漢字 135 字が読めるようになっている。

4 学期目の学習目標は「Intermediate Kanji Book」の第 3 課と第 4 課と復習の課を扱い，合計 50 字の新しい漢字を読み書

きできるようにすることと、「J301」の漢字を読めるだけでなく書けるようにすることである。4 学期目は基礎課程最後の学期で、基礎課程を修了した学生は専門課程でそれぞれの専門分野の日本語文献を読むことになる。しかし基礎課程で扱える漢字数は 746 字と、専門課程で必要とされる常用漢字 1945 字を大幅に下回る。したがって、この 4 学期目は、残り 1200 字ぐらいの漢字を個々の学生が今後どう学んでいけるかを考える最後の機会でもある。

そこで、実際に使用できる漢字数を増やしていくのと平行して、漢字の学び方（ここでは漢字学習ストラテジーとよぶ）の意識化と実践を学習目標に設定した。具体的には次に述べるように、1 学期から 3 学期までに利用してきた様々な漢字学習ストラテジーを一つの体系として示した上で、個々のストラテジーを応用した漢字練習問題を自ら作成するという活動を行った。

2 漢字学習ストラテジーの体系

漢字教材は教科書、漢字表、漢字カード、コンピュータによる学習支援プログラム（CAI）などバラエティーに富んだものが市場に出ている。しかし、いずれの教材も、基本的には以下のように、「漢字レベル」と「単語レベル」と「文・テキストレベル」のストラテジーに三分類できる。

図1 漢字学習ストラテジーの体系

A 漢字レベルのストラテジー

A-1 漢字の意味に着目したストラテジー

- (a) 漢字の意味を絵で表す（例：日・木・山）
- (b) 上記 a. を組み合わせる（例：明・森）

A-2 漢字の形に着目したストラテジー

- (a) 部首を利用する
- (b) 漢字の中の漢字を見つける（例：固と古）
- (c) 似ている漢字を一緒に覚える（例：金と舎、末と未）

A-3 漢字の読みに着目したストラテジー

- (a) 音記号を利用する（例：青，静，清，請，精）
- (b) 同音の漢字を一緒に覚える（例：正，生，世，制）

B 単語レベルのストラテジー

- B-1 品詞別に覚える（例：動詞の漢字，形容詞の漢字）
- B-2 語野を作って覚える（例：家族名称の漢字，仕事名の漢字）
- B-3 類義・反義関係を利用する（例：入学と卒業）
- B-4 漢字を熟語として覚える（例：法：方法・法律・法学）
- B-5 漢字の造語力に着目する（例：語頭/語尾に来る漢字）

C 文・テキストレベルのストラテジー

- C-1 学習したい漢字の使用された文やテキストを読んで覚える
- C-2 学習したい漢字を使用して文やテキストを書いて覚える

このように，上の図にすべてのストラテジーが網羅されているとはいえないかもしれないが，上記の三分類は数ある漢字学習ストラテジーを概観するのに役立つ。なお，個々のストラテジーの詳しい説明は 4 で学生の作品を分析する際に行う。

3 授業の概要

先にのべたように，ここで報告するのは週 2 時間の漢字・読解クラスの，4 学期目の授業である。2004 年夏学期，14 週間の授業記録は以下の表に示す通りである。

学期を通しての学習目標は，実際に使用できる漢字数を増やしていくことと，漢字学習ストラテジーの意識化と実践である。具体的には，漢字練習問題を自ら作成するという課題を課した。

表1 2004年夏学期授業記録（注：IMBK = 使用教科書
Intermediate Kanji Book）

週	授業内容	学習目標
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・IMBK 第3課の漢字学習ストラテジーの説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標と授業の進め方を理解する ・和語の動詞に対応する漢語動詞を学ぶ（B-1 品詞別に漢字を学ぶ/B-4 漢字を熟語として覚える。）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・IMBK 第3課の練習 ・IMBK 第4課の漢字学習ストラテジーの説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢語動詞の使い分けを学ぶ ・和語の形容詞に対応する漢語形容詞を学ぶ（B-1 品詞別に漢字を学ぶ/B-4 漢字を熟語として覚える。）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・IMBK 第4課の練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢語形容詞の使い分けを学ぶ
4	<ul style="list-style-type: none"> ・IMBK 第4課の練習 ・小テスト（第3課） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢語形容詞の使い分けを学ぶ ・漢語動詞の復習
5	公休日	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（第4課） ・「復習 I」の漢字学習ストラテジーの説明 ・漢字学習ストラテジーの復習 ・宿題の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢語形容詞の復習 ・形声文字について学ぶ（A-3-a 音記号を利用する） ・今まで経験してきた漢字学習ストラテジーを思い出す ・グループ毎に問題作成を分担する漢字（20 個未満）を決める/次の三週間での作業手順を確認する
7	休講（Pfingsten）	宿題：休み中に担当する漢字についての漢字にどの漢字学習ストラテジーを用いて練習問題を作成するか決める/練習問題の試案を作成する
8	公休日	
9	休講	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「復習 I」の練習問題 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・形声文字を利用して単語を読む ・漢字の練習問題の試案について話し合う
11	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（復習 I） ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・形声文字の復習 ・漢字の練習問題の試案について話し合う
12	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの練習問題の発表および相互評価
13	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの練習問題の発表および相互評価
14	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題完成品の配布

第1週目から第6週目は、今まで経験してきた漢字学習ストラテジーを再度確認したり、複数の学習ストラテジーを組み合わせる学習方法を体験したりする一方、「A-3-a 音記号を利用する」というストラテジーを導入した。第7週目から第9週目は公休日等で休講が重なった。そこでその期間を、グループ活動の週とし、具体的な漢字練習問題の試案作成を宿題にした。休講期間の中ごろに、中間報告として、担当する漢字のうちどの漢字にどの漢字学習ストラテジーを用いて練習問題を作成することにしたか、その決定結果を提出させた。第10週から13週はグループ毎に練習問題の試案を検討、発表し合い、学生同士相互評価をした。第14週には相互評価で出た意見や提案を盛り込んだ最終版を配布し、漢字学習のまとめを行った。

学生同士の相互評価は、自由に意見を述べ合い、改善点を出し合う以外に、二つのスケールを用いて行った。一つは、該当する練習問題が易しいか、難しいかという難度に関するスケールで、もう一つは当該練習問題がおもしろいか、つまらないかという練習問題に取り組む人の動機に関するスケールである。前者は、漢字の練習問題にも、文法や読解などの練習問題と同様に、様々な難度の設定が可能であることをあらためて確認し、漢字に対する意識を多様化する目的で設定した。後者は、練習問題を作成する側の視点ばかりでなく、作成された練習問題を解く側の視点を意識させることで、練習問題のあり方に工夫を促す目的で設定した。実際の評価の際にはこの後者のスケールが学生の興味を引き、各グループとも、自分たちの練習問題を「おもしろい」と評価してもらいたく競い合うという姿が見られた。

4 学生作品分析

ここでは漢字学習ストラテジー毎に、学生が各ストラテジーをどう具体化したかを具体的に示す。学生は実際には、グループ毎に教科書の課を一つ担当し、そこでの新出漢字(20個未満)に関して様々な学習ストラテジーを利用し、複数の練習問題を作成した。課毎の練習問題を概観できるように、第6課の練習問題を添付資料として文書末に載せておく。

A 漢字レベルのストラテジー

A-1 漢字の意味に着目したストラテジー

(a) 漢字の意味を絵で表す

このストラテジーは、漢字の基本的な意味を絵で表すことによって、意味を覚えやすくするというストラテジーである。特に漢字の語源にこだわることなく、自由に作成している。

例1 「久」と「再」の練習問題（作成：二十三わからねー）

Merken Sie sich die *kanji* als stilisierte Bilder anhand der Sätze! (絵と文を参考に漢字を覚えよ)

叟 → 久 → 久

1. Ein alter Mann trägt eine Kiepe,
das dauert *lange Zeit*.

(老人が背負いかごをしょっている。
長く時間のかかること。)

再 → 再 → 再

2. Quasispiegelung,
alles ist *zweimal* vorhanden.

(みどころ鏡像, すべて
二回分揃っている)

(b) 上記 a. を組み合わせる

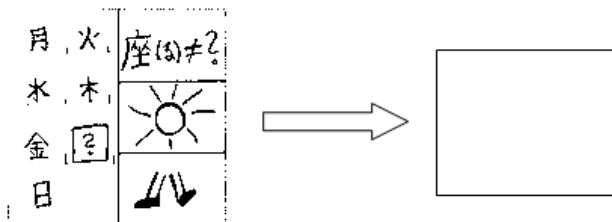
このストラテジーは、漢字をいくつかの部分に分け、分けられた部分ごとに意味を絵で示すというストラテジーである。

例2に見られるように意味の示し方は、必ずしも象形的なものではなく、反義関係を利用したり（「座」の反対は「立」）、クイズ的な指示をしたり（月，火，水，木，金，？，日）と、創造力豊かである。

例2 「境」の練習（作成：がんばりや）

Bilden Sie Kanji aus den unten aufgeführten Bildchen! (絵を基に漢字を組み立てなさい)

Bedeutung: Grenze (キョウ・さかい)



A-2 漢字の形に着目したストラテジー

- (a) 部首を利用する
- (b) 漢字の中の漢字を見つける

(a)の「部首を利用する」というのは、同じ部首を持つ漢字をグループにまとめ覚えるという方法である。

(b)の「漢字の中の漢字を見つける」というのは、部首にこだわらず、漢字を分析的にとらえ、繰り返し現れる漢字の部位で独立した漢字としても存在するものを意識するという方法である。たとえば「固」という漢字を「口」と「古」とに分けて捉え、既習の「古」という漢字と一緒に覚えるという方法である。このストラテジーを個々に応用した作品は見られなかったが、例3の練習問題は、両者を組み合わせたものと考えることができよう。一方では、部首を、他方ではそれ以外の部位（必ずしも単独の漢字として成り立つかは問わない）を組み合わせることによって、目的の漢字を練習しようという問題である。

例3 「雑 普 婦 根 机 晶 帶 章 棚 型」の練習 (アイデア : M. Haustein)

Setze die Kanji wieder zusammen! Vorsicht! Ein „blinder Passagier“ hat sich eingeschlichen! (漢字を組み立てなさい。「ただ乗り客」もいるから注意してね!)

立	土	月	月	艮	九	佳
日	日	日	日	日	日	刑
木	木	木	木	十	ヨ	女
一	一	巾	巾	几	卅	並

1. _____ 2. _____ 3. _____ 4. _____ 5. _____
 6. _____ 7. _____ 8. _____ 9. _____ 10. _____

第3課の漢字

面 合 決 求 取 雜 輕 置 美 直 型 婦 根
 机 普 及 液 晶 携 帶 達 章 処 庭 棚

(c) 似ている漢字を一緒に覚える

このストラテジーは、例えば金と舎、末と未など、字形の似ている漢字をグループにして覚えるというストラテジーであるが、このストラテジーを利用した作品は見られなかった。

A-3 漢字の読みに着目したストラテジー

(a) 音記号を利用する

このストラテジーは、漢字の音読みの音を表す記号、音記号を利用した方法である。例えば「静、清、請、精」は音読みでは全て「セイ」だが、これは音記号「青」をその構成要素として持つことに起因する。このように、同じ音記号を含む漢字をまとめて学習するのは効果的である。

前述の通り、このストラテジーはこの学期に入って初めて導入されたものであったが、まだ習っていない漢字にも応用できるという便利な性格を持ち、学生も練習問題の作成の際、未習漢字を進んで取り入れるなど、積極的な姿勢が見られた。例 4 は学習目的である「屏」という漢字のどの部分が音記号でどの部分が部首であるのかを考えさせる練習問題、例 5 は与えられた漢字群の中から 3 つの音記号を探し出し、音記号ごとに漢字グループを作らせる問題である。

例 4 「屏」の練習問題（作成：がんばりや）

Suchen Sie andere Kanji, in denen entweder der linke, oder der rechte Teil von 屏 vorkommt und vergleichen Sie die Lesungen der entsprechenden Zeichen! Welcher Teil ist (wahrscheinlich) der Lautträger?

（下の漢字群から屏の右の部分を含む漢字と左の部分を含む漢字を探して、読みを比べなさい。どちらの部分が音記号でしょうか。）

Kanji mit 尸: _____

Kanji mit 井: _____

塀, 瓶, 併, 民, 展, 屋, 局, 餅

例5 「農, 際, 裏」の練習問題 (作成: 天下一キラーズ)

Aus dem folgenden Kasten lassen sich jeweils mindestens zwei Kanji zu einer Gruppe mit dem gleichen Sound-Marker zusammenfassen. Der Sound-Marker selbst lässt sich ebenfalls im Kasten finden. Es gibt drei dieser Gruppen. (下には同じ音記号を持つ漢字少なくとも二つずつある。音記号自身もある。音記号別のグループは三つある。)

- 1) Fasse alle drei Gruppen darunter in ihrer Reihe zusammen und gebe darüber hinaus den passenden Soundmarker im fett gedruckten Kästchen an! (漢字を三つのグループに分け, 音記号を太枠の囲みの中に記入せよ。)
- 2) Notiere die 音-Lesung der übrig bleibenden Kanji, so weit du sie schon kennst! (分かるかぎり漢字の音よみも記入せよ。)

	裡	膿	鉄	察
貴				
	裏	利	重	狸
蔡	際	理		
	便		濃	里
祭		独		儂
	理	農	酒	

1

2

3

(b) 同音の漢字を一緒に覚える

このストラテジーは、例えば正，生，世，制が皆「セイ」という読みを持つというように、同じ読みを持つ漢字をグループにして覚えるというストラテジーである。A-3-a のストラテジーと異なるのは、これらの漢字には共通の音記号がないということである。

このストラテジーを応用したのが例 6 である。各単語にはドイツ語で意味が示されている。あまり耳慣れない単語も用いられているが、ほとんどは、既習の単語なので、純粹に漢字の読みだけに注意を向け、単語の「しりとり」練習と考えるのであれば、そんなに難しくはない。

例 6 「季，節，象，浮，兎」の練習問題（作成：お金持ち）

問題：漢字の下に読み方を記入してください。

				Kind ohne Heim u. Eltern		浮	浪	兎
計	器	Messgerät		Regierung	政	府		
	季	節	Jahreszeit, Saison		同	性	gleiches Geschlecht	
Ausstattung		設	備		茶	道	Teezeremonie	
schöne Prinzessin		美	姫		調	査	Untersuchung	
		Wetteramt	気	象	庁			

B 単語レベルのストラテジー

B-1 品詞別に覚える

このストラテジーは、例えば、動詞としてよく用いられる漢字、形容詞としてよく用いられる漢字というように、品詞別に漢字を分類して覚える方法である。例 7 は挙げられている漢字熟語が「する」を伴って動詞となることができるかどうかを問う問題で、このストラテジーを応用しているといえよう。

例7 「視, 覚, 条, 件, 紹, 介, 致, 検, 識, 命, 灰, 」
の練習 (作成 Römerlager)

この言葉の意味は何ですか。「する」といっしょに使ってもいいですか。

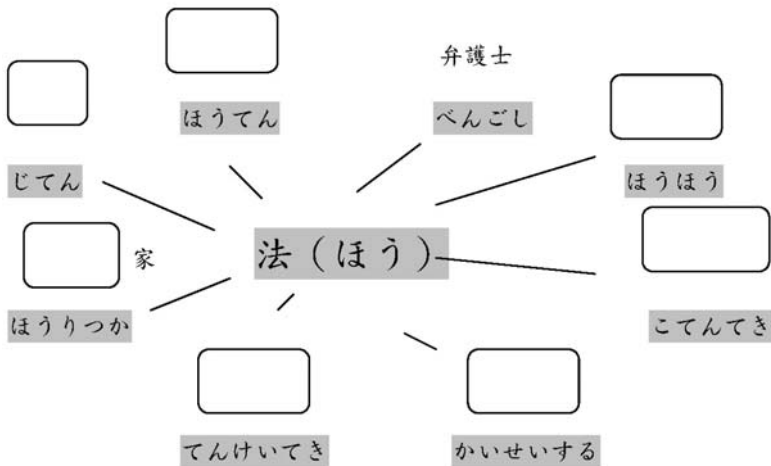
視覚 _____ 視力 _____ 条件 _____
 検討 _____ 識別 _____ 懸命 _____

B-2 語野を作って覚える

このストラテジーは、例えば家族名称の漢字、あるいは仕事名の漢字をひとまとめにして覚えるという方法である。例8に示すのはまず、読みの与えられている漢字熟語を記入し、それから「法」に関係ない言葉を削除する練習問題である。

例8「典」の練習問題 (作成: SJI)

Schreibe die Kanjis und streiche die Wörter heraus, die nicht zum Wortfeld „Recht“ gehören. (漢字を書きなさい。それから「法」の語野に属さない単語を消しなさい。)



B-3 類義・反義関係を利用する

このストラテジーは、例えば、「入」と「出」，「大」と「小」など，反対の意味を持つ漢字をペアで覚える，あるいは「考」と「思」，「答」と「応」など，似ている意味を持つ漢字をまとめて覚えるというような方法である。このストラテジーを用いた練習問題は見られなかった。

B-4 漢字を熟語として覚える

このストラテジーは、ある漢字を新しく覚えるとき，その漢字から成る熟語を一緒に覚えるという方法である。漢字カードを作って覚えるときなどによく用いられる方法で，最も一般的な方法の一つであろう。

例 9 は「戸」という漢字の練習問題だが，既習の漢字と組み合わせることによっていくつか熟語を作り，その意味を当てさせるというものである。また，例 10 は「視」という漢字の熟語の意味を考えさせる練習問題だが，意味をただ考えさせるだけではなく，「視」の基本義を三つ（1）みる 2）ながめる 3）みなす）に分けてとらえ，そのうちのどの意味が該当する熟語の意味に結びついているかを考えさせようとしている。いずれも，漢字熟語を見て，意味を推測させる問題である。

一方，例 11 は，熟語の意味を先に与え，その意味を表す漢字を組み合わせさせて熟語を作らせるという練習問題である。

例 9 「戸」の練習問題（作成：がんばりや）

次の単語の意味は何でしょうか。えらんでください。

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| 1. 戸外で（こがいで） | a. Holzschiebetür, Fensterladen |
| 2. 戸口（とぐち） | b. Tor, Gartenpforte |
| 3. 木戸（きど） | c. im Freien, draußen |
| 4. 雨戸（あまど） | d. Türeingang |

例 10 「視」の練習問題（作成：Römerlager）

この漢字を見て下さい。そして、どんな意味が適切か考えて下さい。

視

Lesung:

SHI

Bedeutung:

1) sehen

2) schauen

3) betrachten als

Kompositum	Bedeutung 1, 2 oder 3 von 視?	Lesung (Hiragana)	mögliche Bedeutung des Kompositums
視力			
視覚			
視点			
視角			
視線			
近視			
遠視			
無視する			
蔑視する			
重視する			

例 11 「限、刻、陰、鐘」の練習問題（作成：がんばりや）

の中から二つの漢字を選び、次の文の意味を表現する熟語を書きなさい。

1. きまったじこくにおくれること（ ）
2. かぎらないこと（ ）
3. なんにもをひみつにしておかないで、ほかのひとにいうこと（ ）
4. あるぐちをいうこと（ ）

声・遅・言・限・鐘・他・刻・陰・無・口

B-5 漢字の造語力に着目する

このストラテジーは、「新，最，無，非」など熟語の語頭を構成する漢字や、「者，家，性，的」など，熟語の語尾を構成する漢字を積極的に集めて覚えるという，漢字の造語力を利用した方法である。このストラテジーを用いた練習問題はみられなかった。

C 文・テキストレベルのストラテジー

C-1 学習したい漢字の使用された文やテキストを読んで覚える

このストラテジーは，たとえば，教科書のテキストなど，学習目的の漢字が含まれているテキストを読むことによって漢字を覚える方法である。多くの教科書は，採用されているテキストに出てきている漢字を学習するという構成になっているので，自動的にこのストラテジーを利用していることになる。例 12 はこのタイプの典型的な問題である。

例 12 「致，検，査，識」の練習問題（作成：Römerlager）

この文を読んで，読み方を書いて，そして，訳して下さい！

1. 二人の意見が一致しました。
2. デバロアの実験と同じようなやり方で検査したところ，
3. 人間とサルの識別能力はほぼ一致しています。

C-2 学習したい漢字を使用して文やテキストを書いて覚える

このストラテジーは，学習目的の漢字を用いて，文やテキストを産出するという方法である。つまり，学んだ漢字を実際に使用できるという漢字学習の最終目標にあたる課題である。例 13 は，選択肢の中から，当該漢字を書かせる穴埋め問題であるので，自由産出型の問題ではないが，文単位での練習問題となっているので，あえて分類するとすればここに該当するであろう。

例 13 「限, 刻, 他, 鐘, 陰」の練習 (作成: がんばりや)

右の□から単語を選び, 次の文を完全しなさい。

1. 定員を___って, 入場させる
2. 教会は一時間ごとに___を鳴らす
3. 野菜を___んで, 料理する
4. すぐ雨が降るようだ。だんだん___っていくから
5. わがままをするな! ___の人もいるんだよ。

限る
刻む
他
鐘
陰る

5 「漢字を教える」から「漢字の学び方を学ぶ」へ

以上, 学生の作品を分析しながら, 漢字学習ストラテジーを説明した。この他にも, いわゆる Eselbrücke, つまり記憶を容易にするためのヒントを短い文にしたものを個々の漢字について考え出したグループや, 神経衰弱のゲームのように, 漢字とその意味や読みのペアを作るゲームカードを作成したグループもあった。

上に紹介したように, 学生の作成した練習問題は多彩でアイデアが豊富であった。これほどまでの成果がでようとは, 正直言って考えていなかったため, 学生の創造力と, 漢字学習ストラテジーを使いこなす応用力に驚いている。これらの作品は, 当研究所のホームページ上に公開され, 続く学年にも練習問題として利用されている。続く学年ではこのような授業をできなかったのだが, 先輩たちの練習問題を見て刺激を受けた個々の学生からは, 自作の練習問題が上がってきている。

この授業を通して私自身が一番感じたのは, 漢字に対するアプローチは非常に多種多様であることである。ところが, 一個人が使いこなせるストラテジーの数には限りがあるし, ストラテジーに関する好みの個人差も大きい。したがって, 一定の学習者数を集めることができるという教育機関の強みは, このようなグループワークや相互援助の体制を整え, お互いのストラテジーを伝授しあい, 共有しあう場を作れることにあるのかもしれない。

漢字は会話力の養成などとは異なり, 独学もできる, あるいは自習の比重が高い学習分野でもある。したがって, あえて漢字を授業で扱うことの意義は, さまざまな漢字学習の

形態と教材を紹介し、個々の学習者が自分にあう漢字学習方法を編み出していくというところにあるとも言えよう。

既に述べたように、大学の基礎課程で授業中に扱える漢字の数は、専門課程で必要とされる常用漢字の漢字数を大きく下回るのが現状である。よって、基礎課程では「漢字を教える」というよりも、「漢字の学び方を学ぶ」ということにもっと重点をおいてもよいのではないだろうか。

6 今後の課題

最後に反省点をいくつかあげ、今後の課題としておきたい。第一点目は期末試験直前によく個々の練習問題の最終版ができあがったというタイミングである。これからの専門課程での勉強に備えて漢字学習ストラテジーを身に着けるといふ大きな目的他にも、試験範囲の漢字を覚えるために、お互いに練習問題を作り合うという試験に直結する目的もあったのだが、後者の目的を考慮するなら、練習問題がもう少し早く仕上がっていたほうが試験対策になったであろう。

第二点目は、3週間あった授業を介さないグループワークの期間である。中間報告の提出を義務付けてはいたものの、実際にどのようにグループワークが進行したのか、あるいは滞っていたのか、また、グループ内での問題はなかったのか等、不明な部分もかなりある。

第三点目は、この授業を通して学生に何が起こったかが実は分からないという点である。練習問題の作成、および相互評価の際に、個々の印象や意見などはうかがい知れたが、学生の漢字に対する意識が、この授業の前後で変わったのか、変わったとしたらどのように変わったのか、この授業の後どのように漢字と向き合っているのか等、意識調査や話し合いをしておけば、学生の内部で起こったかもしれない学び過程をもう少し把握できたのではなかったかと思われる。

以上三つの反省点を踏まえて、2005年冬学期にまたあらためて漢字ストラテジーを学ぶ授業を展開してみたいと考えている。特に第2点目の反省点に関しては、ボン大学で導入が始まったE-Learningシステムを援用することによって改善を試みたいと思っている。

引用文献

- 加納千恵子 清水百合 竹中弘子 石井恵理子 (1989)
『Basic Kanji Book 500』 第2巻 凡人社。
- 加納千恵子 清水百合 竹中弘子 石井恵理子 阿久津智
(1993) 『Intermediate Kanji Book』 第1巻 凡人社。
- 土岐哲 関正昭 平高史也 新内康子 鶴尾能子 (1995)
『日本語中級 J301』 スリーエーネットワーク。
- 坂野永理 大野裕 坂根庸子 品川恭子 (1999) 『初級日本
語げんき』 The Japan Times。